

< 巻 頭 言 >

分析センター設立8年目に思うこと

分析センター長 星野正松

歲月人を待たずと申しますが、分析センター設立から早くも8年が経過いたしました。歴代分析センター長の御努力、歴代の学長ならびに事務局のご協力により、また、分析センターを利用させていただき教職員のご協力により今日のセンターまでに成長充実させていただきました。まことに慶賀に存じます。

私事で恐縮ですが、私が埼玉大学に参りました時は大学は文理学部と教育学部の二学部で、有機化学系で使用出来る機器はUV 1台で、しかも生物学科との共同利用でした。手動式で途中で電源を交換する方式でした。数年後、IR(簡易型)が入り研究室全員で大喜びした事を今でも記憶しています。有機系の唯一の機器ですから、極めて大事に取扱い、しかも私一人で管理し、測定もいたしました。1人で測定試料を作るので、特にKBr錠剤をプレスで作る際には100件近くのサンプルを処理し腰痛で困った事など懐かしい思い出となっております。この様なやり方で測定をしていましたので、故障なく機器も長持ちしました。その後理工学部となり学生数が増加し、測定数も多くなったので、測定資格に合格した学生に測定が出来るように改めました。ワンマン的保守、管理や運営の容易だったこんな過去を思い出し、今日の分析センターの充実や利用頻度等をみますと、隔世の感があります。

さて、分析センターが充実しつつあると申しましても、それに付随して色々な問題も生じております。単刀直入に申しまして、そのうちの1つは人の問題です。ご案内の様に「精密有機合成および生体機能物質の分子構造総合解析システム」「表面分析総合解析システム」の構築のため努力しておりますが、その完成を急がねばなりません、それとは裏腹に保守、管理、サービスは現在員では極めて困難な状況にあります。3月末頃に数種の機器の故障やトラブルが連続して起こり、その処理に追われて4月の研究員会議で行なう予定の決算報告も1ヶ月遅れる原因となってしまいました。これはほんの一例で共同利用の避けられない点と思われれます。

分析センターは教職員、学生の利用者に常時、満足して利用出来るように日夜努力すべきは当然ですが、色々の省力化も行っていますが、これから先の保守、管理、サービスについて不安を感じております。概算要求で64年度も技官1名を要求しておりますが、要求は要求として、現実的解決法の1つとして考えられるのは、利用していただく教職員の方々に応分の負担をお願いしなければならない時が近く来るであろうと思われることです。その際には皆様のご理解ある処置をお願いしたいと思っております。具体的提案等につきましては研究員会議やその他の場で充分御検討、御批判をいただきたいと思っております。8年間も過ぎますと、人以外の点でも見直す点が出て来るのは当然であり、更に学部学生増や博士課程の新設等に関連して、分析センターはどうやるべきか等も考える必要があると思われれます。

重ねて申しますが、分析センターは常時利用者の皆様に不自由なく利用していただき、立派な研究業績をあげていただくようにこれからも努力していく所存でございますので、忌憚ないご意見を寄せていただくと共に、今後とも宜しく御指導、御鞭撻の程お願いいたします。